

# 令和6年度秦野市健康増進計画検討委員会 議事要旨

日時：令和6年8月8日（木）午前10時30分～12時10分

場所：秦野市役所本庁舎3階講堂

出欠状況：委員 出席9名

事務局 7名

## ■ 令和6年度秦野市健康増進計画検討委員会 名簿（敬称省略）

番号	区分	所属	氏名	出欠
1	学識	国際医療福祉大学 小田原保健医療学部看護学科 教授	斎藤 照代	出席
2		東海大学 体育学部生涯スポーツ学科 講師	松下 宗洋	出席
3		一般社団法人秦野伊勢原医師会 役員	関野 高弘	出席
4		一般社団法人秦野伊勢原歯科医師会 会長	井上 泰	出席
5		NPO法人秦野市薬剤師会 会長	大島 正	出席
6	行政	神奈川県平塚保健福祉事務所秦野センター 保健福祉課長	古川 弘子	出席
7	地域	秦野市食生活改善推進団体 会長	小澤 美代	出席
8		秦野市民生委員児童委員協議会 児童部会長	新津 亨	出席
9	市民	一般公募による市民	益井 亜矢子	出席

## 事務局

1	こども健康部長
2	こども健康部参事(兼)健康づくり課長
3	こども健康部健康づくり課 課長代理(健康づくり担当)
4	こども健康部健康づくり課健康づくり担当 栄養士
5	こども健康部健康づくり課健康づくり担当 保健師
6	こども健康部こども家庭支援課親子健康担当 技幹
7	福祉部高齢介護課 高齢者支援担当 主査

## ■ 会議次第：

- 1 開会
- 2 委嘱状交付（机上交付）
- 3 挨拶
- 4 副委員長の選出
- 5 議事
  - (1) 第4期計画における令和5年度の評価について
  - (2) 第5期計画について
  - (3) その他（協議会の体制変更、委員会名称変更について）
- 6 閉会

■事前送付資料：

- 資料1 秦野市健康増進計画 第4期計画 体系図
- 資料2 秦野市健康増進計画 第4期計画 進行管理シート
- 資料3 秦野市健康増進計画の推進に関する検討委員会 評価シート
- 資料4 秦野市健康増進計画の推進に関する検討委員会 評価票

■当日配布資料：

- 令和6年度 秦野市健康増進計画検討委員会 次第（本紙）
- 令和6年度 秦野市健康増進計画検討委員会 出席者名簿
- 参考資料1 地域での健康はだの2 1 推進活動の取組み（令和5年度）
- 参考資料2 秦野市健康増進計画 第5期計画 体系図

■議事要旨：

- 1 開会
- 2 委嘱状の交付（新規委嘱委員のみ）
- 3 挨拶
- 4 委員・事務局紹介
- 5 副委員長の選出
- 6 議事

<b>議事（1） 第4期計画における令和5年度の評価について</b>	
事務局	事前送付資料（資料1～4）について説明
委員長	「進行管理シート」の順に、「担当課評価」も確認しながら、委員会としての「令和5年度の取組みに対する全体評価」をまとめていきたい。昨年度計画策定に当たって、第4期計画全体評価を実施した中で、今回令和5年度の実施評価をするため、今後第5期計画を推進するに当たっての視点やご助言もいただければと思う。
<b>【基本の方向性Ⅰ「健康を支援するコミュニティの実現」】</b>	
<b>《Ⅰ-1 社会的つながり》</b>	
事務局	資料2（社会的つながり）について説明
委員長	令和5年度は、新型コロナウイルスの影響を受けていた時期と比較して、かなり活動が増えたようである。コロナ禍において、運動事業を進めていくことは非常に難しかったのではないと思うが、高齢者を対象とした東海大学との連携事業について、今後どのように進めていくか。
委員	時代に合わせた形で進めていくことが必要であると考えている。学生の状況や教員の体制もコロナ前と変わっているところがあるため、出来る範囲で調整し、協力していきたい。チャレンジデーは、笹川スポーツ財団が主催していたが、令和5年度をもって終了したため、今後どのように連携していくか相談していければと思う。
委員長	専門家がアシストしていくことで、よりよい環境を提供できると思う。

事務局	高齢者を対象とした東海大学との連携について、「はだのさわやか体操で介護予防」という形で事業の展開を図っている。体力測定を「通いの場」で実施し、東海大学や市内事業所の理学療法士に協力をいただきながら、介護予防として知識の啓発を行っている。
委員長	リハビリ職と連携して、運動を科学的な根拠に基づいて実施することはとても良い取組だと思う。まだ目標値に達していない部分があるため、取組を強化していただけると良い。
委員	「若い世代への健康情報の発信」について、QRコードを活用した取組を行っていることは大変良い。実際には高齢者でも同じシステムを使って予約をすることができていると思うため、幅広い世代へ向けて発信していただきたい。
委員	通いの場はどの程度実施していて、何名くらい参加しているのか。また、通っていない方に対してどのように対応しているか。
事務局	「通いの場」は月1回で5人以上と定義しており、その中でもさわやか体操を実施している団体は30団体程度。それ以外にも、少人数で集う場として活動されている方もいて、年間では6,000人以上の方が参加している。家から出ることが難しい高齢者については、訪問を行っている。
委員	「通いの場」に来られない高齢者の対策はどのようにしているか。
事務局	なるべく家から出られないということがないように、歩いて行ける場所を「通いの場」に設定している。また、リハビリ職との連携を行い、安全に歩くことができるよう、目標を設定して取組みを行っている。
委員長	取組の評価としてはいかがか。
委員	評価としては、「A」でよいと思っていたが、「D」が2つあり、もう少し検討する余地があると思うため、「B」でよいか。 《異議なし》
委員長	コロナ禍においてICTを活用してよく取り組まれていた。多様化という部分にも取り組まれていると思うため、さらに進めていただきたいと思う。
<b>【基本の方向性Ⅱ「健康維持向上のための生活習慣の改善と環境づくり」】</b>	
<b>《Ⅱ-1 栄養・食生活》</b>	
事務局	資料2（栄養・食生活）について説明
委員長	食生活改善推進員の養成・人材育成について、目標に対する実績値が14.3%で、実際の入会率と差があるが、その理由を教えてください。
事務局	取組の指標では、参加者に対して実施したアンケートの結果の数値を実績値として反映しているが、実際には、アンケートを回収した後に、参加者同士が声を掛け合い、誘い合って食生活改善推進員に加入されており、令和5年度の参加者の加入率としては、50%程度となっている。
委員長	地域で食に関しての取組を進めていくに当たり、入会率は非常に重要であるため、できる限り入会率を上げることができるようにしていただきたい。実際の入会率が分かっている場合は、その数値を反映した方がよいと思う。この数値で

	は、入会率自体が大変低い印象を受ける。
委員	昨年度入会された方は20歳代の方もいて、今後の活動に非常に期待している。若い世代で加入された方は、働きながらなんとか講座に参加している方がほとんどで、実際の推進員としての活動は難しい部分がある。そのような方には、長い目で見て出来るときに出来る活動をしていただきたいこと、そして、活動に慣れていただくことをお願いしている。食生活改善推進員の高齢化の問題もあり、ぜひ活動に活発に参加していただきたいという思いでいる。
委員長	乳幼児健康診査は非常に受診率の高い健診であり、その機会を利用して早い段階から食育を推進することは非常に良い取組だと思う。
事務局	食育推進キャラクターも活用しながら、「早寝、早起き、朝ごはん」の生活習慣の確立を目指していく。
委員	「メタボリックシンドローム予防・改善のための料理講座」は、とてもよい講座だと思うが、対象が特定健康診査受診者のみとなっている。対象者を幅広くするような変更の予定はあるか。
事務局	この講座は、特定健康診査受診者の結果通知に講座の案内を送付しているため、基本的に対象者は特定健康診査受診者となるが、「病態別料理講座」に関しては、同じようなテーマで広報にも募集を掲載して幅広く市民の方に参加いただける講座としている。
委員長	特定健康診査受診率は、すごく高いわけではないと思うため、幅広く市民の方々に参加していただける方策をとられているのは良いことだと思う。 取組の評価として、各取組の目標の達成率が非常に高いので、「A」評価でよいか。 《異議なし》 食生活活動推進員の活動をより強化するということは、ぜひ目指していただければと思う。
<b>《Ⅱ-2 身体活動・運動》</b>	
事務局	資料2（身体活動・運動）について説明
委員	普段、20歳代後半から40歳代の方と運動をする機会が多いが、30歳代の方の運動の状況が反映されていた方が、評価するときによいと思う。
事務局	第5期計画を推進する中で、イベント等で配布するアンケートにおいて若い世代の運動の状況を聞く項目を設けているため、今日いただいたご意見を参考にし、状況把握に努める。
委員長	若い時から運動習慣を身に着けると、長きにわたって続き、そして、習慣は早い段階で身に着けると効果があるため、若い世代のターゲットも念頭においていただけるとよいと思う。 今の話に付随するが、働き世代の運動は課題だと思う。例えば産業の分野との連携という点ではいかがか。

事務局	産業関係は、職域の分野で本市、伊勢原市、保健所、東海大学との連携を進めている。本市は、中小企業が多くあるため、昨年度より保健師が出向いて企業に対しての働きかけを行っている。課内でも、特に力を入れていくべき部分であるという理解をしている。
委員長	産業分野でも、生産年齢人口が減っている現状から、長く元気で働くことができる労働者づくりがテーマとなっていると思うため、早い段階から専門職が介入して取組みを進めることができるとうい。
委員	<p>最近「健康経営」を取得する企業も増えている。従業員数が少ない企業の「健康経営」が進まないという現状も耳にするため、市として支援を行っていくと良いと思う。</p> <p>質問だが、はだのさわやか体操のニーズの変化はあるか。通いの場や集まって体操をする意義はもちろんあると思うが、現代は個人で運動を楽しむ時代ともいえると思う。</p>
事務局	ニーズの大きな変化はない。若い世代の方にとっては、体操を通じて健康づくりをするというのは難しい点があると思う。身体活動を増やすという目的だけではなく、高齢介護課でのフレイル予防の取組や、健康づくり課で実施している地域の体操会の中ではだのさわやか体操を実施する中で、社会的なつながりを維持するためのツールとしてのニーズは今後も継続していくと思う。
委員	また、3033運動については、神奈川県取組だったと思うが、県としてはどのような取組みを進めていくか等把握しているか。
事務局	県としての事業の進め方は分かりかねるが、本市のスポーツ推進課としては、イベント規模が戻っていくことも踏まえて、この3033運動のリーフレット配布等を行いながら、啓発していく予定と聞いている。
委員長	<p>取組の評価としては、「B」評価でよいか。</p> <p>《異議なし》</p> <p>職域や若い世代への取組みを進めていただければと思う。</p>
《Ⅱ-3 こころの健康・休養》	
事務局	資料2（こころの健康・休養）について説明
委員長	秦野市のプロフィールの結果を教えてください。
事務局	秦野市としては、高齢者や無職（生活困窮者）、若い世代や女性に特徴がある。自殺対策計画の策定に当たっては、「いのちを大切にすること」はもちろん、「生きることを支える」という視点を持って策定した。
委員長	対策を行うに当たっては、誰に対しての支援なのかということが明確になっている必要がある。今の秦野市では、高齢者や生活困窮者に対しての支援が必要ということで、他の部署との連携が必要になってくる事項だと思うため、引き続き連携した取組を進めていただきたい。

委 員	不登校に関して、全国的な増加とともに、秦野市でも増加傾向であると、教育委員会の方から確認している。引きこもりにもつながってくると思うが、小学生・中学生の不登校対策や働きかけについて、どのようにしているか。
事 務 局	自殺対策計画委員会の中では、学校としてスクールカウンセラーへ相談しやすい環境づくりとして、以前より対応できる日数を増やして対応していると聞いている。また、学校だけではなく、NPO法人などのボランティア団体が地域で集まることができる居場所づくりを行っている。
委 員 長	子どもだけの問題ではないと思うが、インターネットによるいじめの問題もあり、ICTを活用した対応も必要かと思う。
委 員	幼小中PTA向け健康講座の担当課評価が「B」となっているが、評価指標の実績値が目標値を上回っているので、「A」でよいのではないか。
事 務 局	確かに目標値としては実績値が上回っているので、「A」でも良いと考えたが、実施回数としては5件であり、事業担当者としてはより幅広く事業を実施したいという思いから「B」評価にしている。
委 員 長	この項目については、「A」でよいか。 ≪異議なし≫ 特に、プロフィールを踏まえて、若い世代やインターネット・ICTを活用した取組みを進めていただきたいと思う。
≪ II-4 喫煙 ≫	
事 務 局	資料2（喫煙）について説明
委 員 長	個別健康相談に関して、特定保健指導の中で実施しているということによいか。実績値の66.6%という数値は、実際に指導を行って行動変容ができた人すべてを反映した数値か。
事 務 局	特定保健指導の一環として実施し、喫煙者の中で禁煙を希望する人のうち、行動変容があった人を数値として反映している。喫煙者自体が減っている傾向にあることも近年の特徴といえると思う。
委 員 長	日本の喫煙率は16.7%になっており、そのような特徴がある。禁煙外来については、成功率が8割程度と非常に高いため、よい紹介先だと思うが、禁煙補助薬の供給は再開しているか。
委 員	一時期入ってこないことがあったが、再開している。
委 員	市内小中学校での禁煙防止教育について、出張講座という形で取組を行った件数を実績値として入れているということか。学校としては保健計画の中で、全校で実施していると発表している。 もう一点は、お酒の関係についての取組みの状況はどのようなか。
事 務 局	禁煙防止教育の実績値は、健康づくり課で依頼を受けて出張講座を行った件数を実績値としているため、例えば授業内で実施した内容については反映していない。 お酒に関する取組は、第5期計画から取組分野に追加している。

委員長	<p>教育指導要領の中で、実施しなくてはならない内容として定められているが、さらに希望した学校に対して禁煙防止教育を実施している。何かしらの課題があって、希望されているという背景があると思うため、学校の先生が実施した方がいいことと外部の専門職が実施した方がいいことを組み合わせるとさらに効果があると思う。</p> <p>まずは、依頼をしている学校が何かしらの課題を持って出張講座を希望しているのかどうか、その課題の分析ができるかよい。</p> <p>厳しい評価もいくつかあるようだが、「B」でよいか。</p> <p>《異議なし》</p> <p>引き続き、学校との連携や特定保健指導において個別のフォローアップを行っていただきたい。</p>
《Ⅱ-5 歯・口腔》	
事務局	資料2（歯・口腔）について説明。
委員	<p>今年から、歯周病検診の対象が20歳、30歳にも拡充され、20歳の方の受診も少しずつ増えており、いい傾向である。口腔がん検診については、歯科医師会のマンパワー不足の問題から定員が20名の状況が続いている。</p> <p>これは要望だが、「歯と口の口腔ケア講演会」について、市の広報からの申し込みが少ない状況。可能であれば、QRコードからの申し込みシステムについて、市と連携して取り組めないかと思っている。</p> <p>また、教育部へお願いする事項かと思うが、「全国小学生歯みがき大会」というものがあり、神奈川県の実施率は全国で最低で、市内では1校も取り組んでいない状況。授業数の問題はあるが、早い段階から取り組んでいけるとよいと思う。歯科医師会からも、教育委員会に働きかけていきたいと思う。</p>
委員	口腔がん検診の評価について、そもそも定員が20名で20名受診しているのであれば、目標は十分に達成しているのではないかと思う。
委員	本来であれば、もう少し回数を増やしていく予定だったため、目標値についてはその名残もある。
委員	努力されて、定員20名すべての方に実施をしているため、評価が「C」となっているが、「B」でもよいと思う。
委員長	<p>マンパワーの問題があると分かっているのであれば、評価の目標値を修正しても良かったかもしれない。</p> <p>取組の評価として、「B」という意見と「A」という意見があるが、「A」評価でよいか。</p> <p>《異議なし》</p> <p>是非、評価の方法について見直しを図りながら、適切に評価していただければと思う。</p>
《Ⅱ-5 感染症》	
事務局	資料2（感染症）について説明

委 員	麻疹・風疹の接種率低下については、非常に心配されるところ。1歳6か月健診時に勧奨チラシを出しても、接種率には反映されないため、8から10か月健診の案内送付の際に、「1歳になったらすぐに麻疹・風疹のワクチン接種を行いましょう。」と呼びかけることが必要だと思う。予診票の送付や接種できる医療機関の情報についても併せて周知することにより、接種率の向上が期待できるのではないか。
事 務 局	1歳6か月健診での周知は、本委員会でご指摘を受けてから年度途中の周知であるため、ここで案内を見て接種した方の接種率は今後反映されていくと思う。予防接種の案内については、4か月健診時、8～10か月児健診の案内と一緒に送付し、その際にも予防接種の周知はしている。今後、接種率の推移を見ながら、担当課でも対策をさらに検討していきたいと思う。予診票に関しては、令和6年度から出生届が提出された段階で、予防接種に関する冊子と併せてお渡しするように変更している。
委 員 長	例えば、幼稚園・保育園へのアプローチも方法のひとつだと思う。評価としては、「B」評価でよろしいですか。 《異議なし》 いつ接種することが適切な予防接種なのかを考えながら、適切な周知に取り組んでいただきたいと思う。
<b>【基本の方向性Ⅲ「生活習慣病の重症化予防」】</b>	
<b>《Ⅲ-1 がん》</b>	
事 務 局	資料2（がん）について説明 子宮がん、乳がん、大腸がん健診の受診率の指標は、市が行うがん検診のみの受診率を表す数値であり、職域での受診や人間ドックは含んでいない。市で実施するがん検診の受診率は横ばいとなっている。
委 員 長	職域のデータが入ると、評価についてかなり変わるのではないか。
委 員	人間ドックについては、秦野市の国民健康保険に加入している人で、市の補助を受けて人間ドックを選択する人もいると思うが、そのあたりの数値も入ってくると、評価の数値も変わるのではないか。
事 務 局	ご指摘のとおり市の国民健康保険に加入している人で、人間ドックを受けている人もいるため、その中の受診率が分かると数値は変わってくると思う。国の目標値をそのまま目標として反映しているため、現実的な数値で評価できる目標値で評価を行っていく。
委 員 長	他部署との連携の中で進められる部分を評価に反映していただきたい。「B」評価でよいか。 《異議なし》 第5期計画を進めるに当たっての評価方法については、事務局でよく検討していただきたい。
<b>《Ⅲ-2 生活習慣病》</b>	

事務局	資料2（生活習慣病）について説明
委員	評価指標の「特定保健指導対象者割合の減少」について、減少することが目標であるため、8.5%の目標値に対して9.5%の実績値だと、目標達成していることにはならない。他の評価指標は基本的に増加することが目標だが、この項目は減少することを目標にしていることに注意が必要。
委員長	特定健康診査の対象者になるということは、健診結果が芳しくないといえると思う。この数値の算出方法と目標値の根拠を教えていただきたい。
事務局	算出方法は、特定健康診査受診者のうち、特定保健指導の対象者となった人の割合から算出している。目標値は、計画策定時点の実績値が9.8%だったことから、8.5%としている。
委員長	「B」評価でよろしいですか。 ≪異議なし≫ 適切な評価ができるように、評価方法については事務局で見直しを行っていただきたい。その他、何か全体を通してあるか。 ≪意見なし≫ では、今皆様からいただいたご意見を第4期計画における令和5年度の評価としたいと思う。
<b>議事（2） 第5期計画について</b>	
事務局	参考資料2について説明
委員長	このことについて、ご質問やご意見はあるか。 ≪意見なし≫
<b>議事（3） その他</b>	
事務局	健康増進計画事業推進協議会について、来年度は関係課で構成する連絡会への移行を予定している。この移行により、各団体の窓口となる関係課を通して、市内全域に健康づくりが広まるような仕組みづくりの実現を目指すもの。 続いて、本会の名称変更について、健康増進計画をより推進していくことが目的であることや、下部組織である推進協議会の体制変更等を踏まえ、「健康増進計画推進委員会」へ名称を変更予定。 なお、来年度の委員会の開催は年1回を予定している。
委員長	このことについて、ご質問やご意見はあるか。 ≪意見なし≫ ここで事務局にお返しする。
事務局	本日、委員の皆様からいただいたご意見を参考に、令和5年度評価をまとめ、第5期計画についても、より実効性のある計画にしていきたいと思う。